岩手医科大学整形外科教室
同門会（折肱会）の歴史

駒ヶ嶺リウマチ整形外科クリニック
駒ケ嶺　正隆

昭和23年4月1日（1935年） 岩手医科大学整形外科教室 開講
初代教授 三木威勇治 先生（1935.4.11～1937.1.17）

初代 東北大学整形外科教授
（1942.4.10～1949.3.31）
3代目 東京大学整形外科教授
（ 1949.4.1～1965.3.31）

①岩手医大（10代）
②慶応義塾大学整形外科、京都大学整形外科（8代）
③東京大学、九州大学、日本大学・・・（7代）

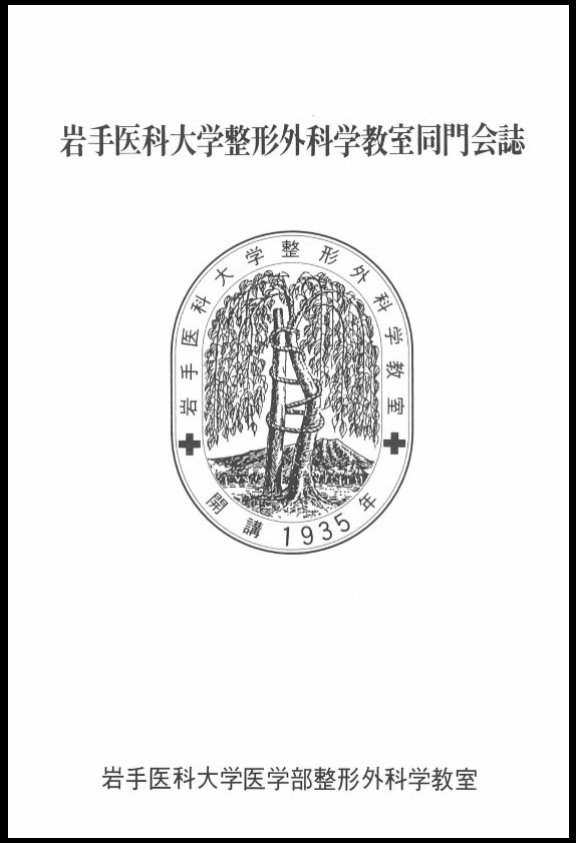
10代目教授 土井田稔 先生

岩手医科大学整形外科教室同門会
初代会長　菊池正三　先生（国立鳴子病院院長）

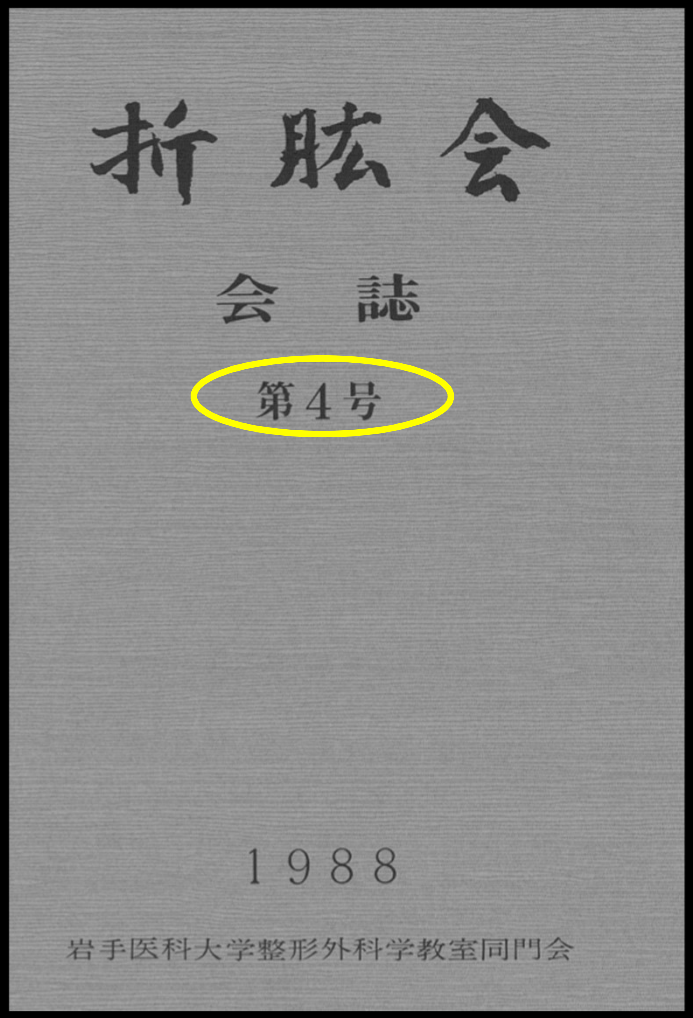
7代目教授　猪狩　忠 先生

〰猪狩　忠　教授肖像（藤沼源三画伯作）〰

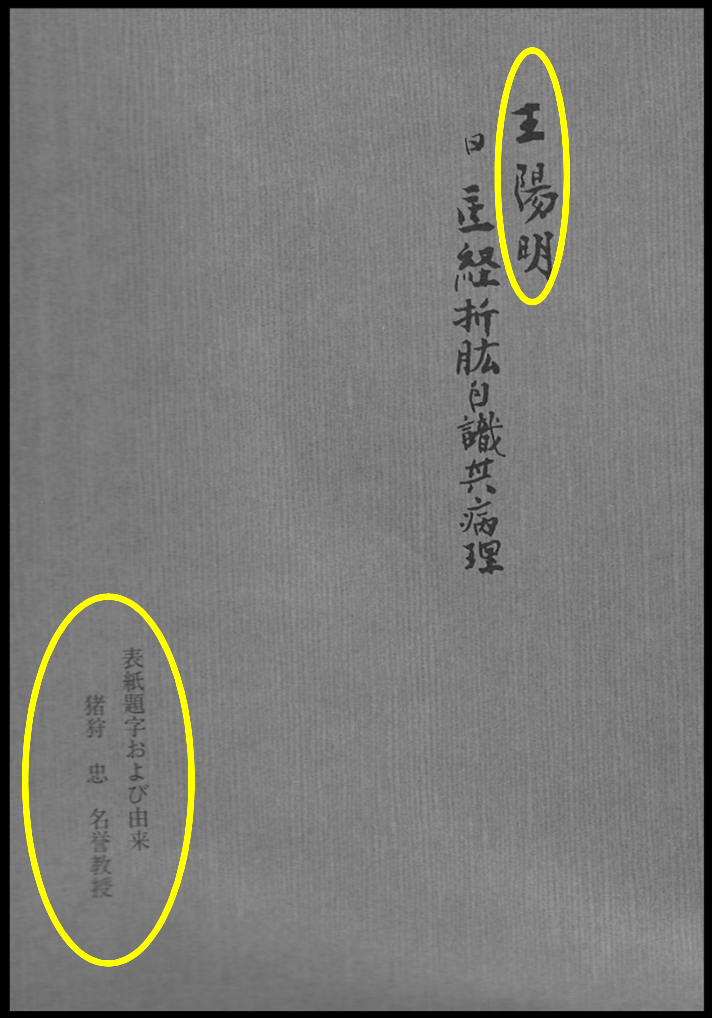
1956年4月14日～1985年3月31日
教授退官後2代目同門会会長に就任



同年1985年　同門会誌発行（第1号）



1988年
岩手医科大学整形外科教室
同門会を別称　折肱会と命名



表紙題字の由来
王陽明
1472～1529　中国明代の思想家
医　折肱　病理
医者は一度肱を折りなさい

岩手医科大学

校　歌

土井晩翠作詞
山田耕筰作曲

一、ああ生々の　徳のあと
天地の光　人界の
喜び仁の　術はあり
病める弱れる　悩めるを
救はん　仁の術ここに

二、奥羽のもなか　杜の陵
中に今見る　我が校舎
高き尊き　天職を
かしこみうけて　幾百の
健児学びの　窓による

三、心を治め　技を練り
日々向上の　一途に
わが青春の　血ぞ熱き
三たび肱折る　法のあと
見よ杏林の　風薫る

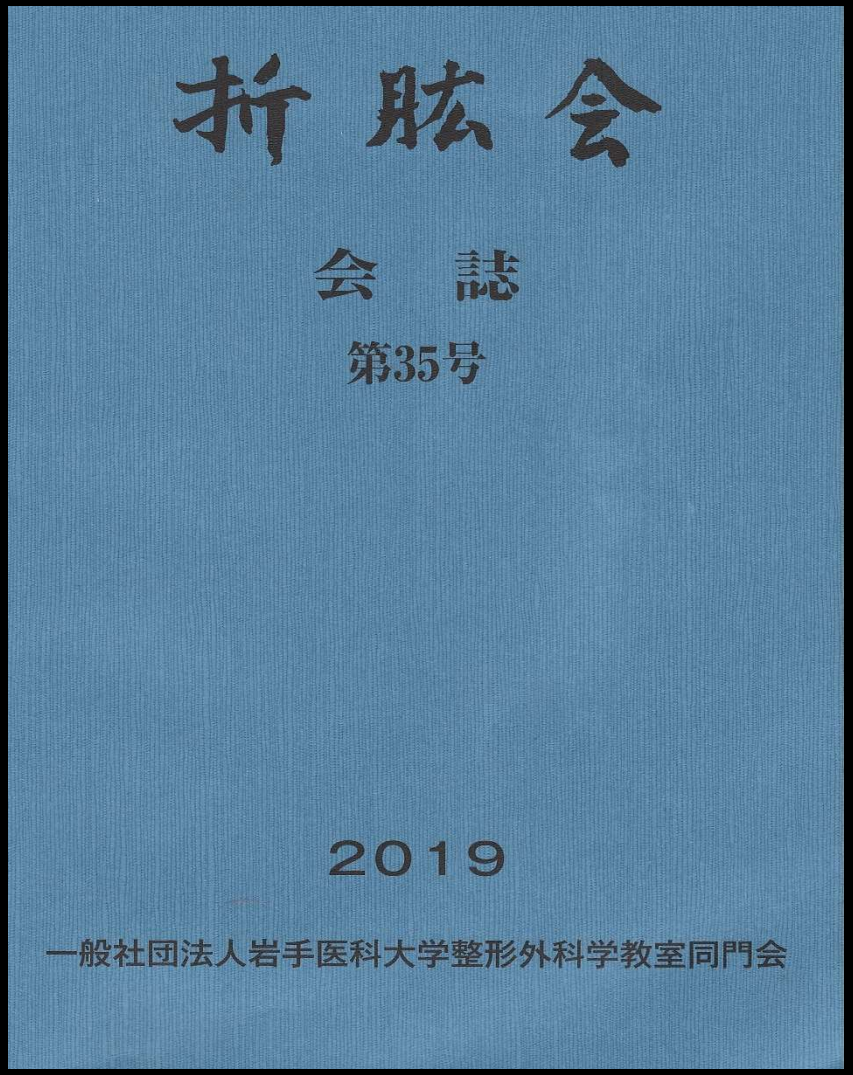
四、ああわが健児　昔より
知の一切を　料として
進み来りし　道により
人類愛の　名によりて
世に光明を照らしめよ

岩手医科大学校歌

三度肱折る法のあと
土井晩翠作詞

中国の紀元前（BS770～BS221）の550年
春秋戦国時代　春秋左氏伝（中国古典）

三度肘を折って良医となる



三度、肘を折り良医になってほしい

岩手医科大学校歌

作詞　土井　晚翠
作曲　山田　耕筰

一　ああ生々の　徳のあと
天地の光　人界の
喜びにの　術はあり
病める弱れる　悩めるを
救はん　仁の術ここに

二　奥羽のもなか　杜の陵
中に今見る　我が校舎
高き尊き　天職を
かしこみうけて　幾百の
健児学びの　窓による

三　心を治め　技を練り
日々向上の　一途に
わが青春の　血ぞ熱き
三たび肱折る　法のあと
見よ杏林の　風薫る

四　ああわが健児　昔より
知の一切を　料として
進み来りし　道により
人類愛の　名によりて
世に光明を照らしめよ